



インタビュー

NPO 法人

ドットジェイピー

が、HP上の「議員N A V I」にて仕事内容の予定を公開している。議員だけでなく、ドットジェイピーは日本にある海外大使館や商工会議所、海外で活動するNPO法人とインターンシップを行う「グローバルインターンシップ」も仲介している。設立から17年でインターン生は延べ17000人を超え、一期間あたりの人数も年々増加している。

大学生ならだれでも

議員インターンシップには学部を問わず多くの学生が参加している。インターン生の専攻は、政治学はもちろん、文学、法学など様々で、理系は全体の約1割程度を占めているという。参加者の2割は将来、公務員や公共事業に携わることがを希望しているのだが、そうでない人も得るものは多い。期間中には他大学の学生と一緒にすることもあって同じ若者からの刺激もあるといえる。過去に本学学生がドットジェイピーのスタッフとして働いていたこともあった。議員インターンシップを経て、現職の知事になっているという事例もある。事前に必要な知識はあるかという質問に対し、刎本さんは「議員さんにもインターン生が大学生であることを知っているのだから、特別な知識は必要ないです。学ぼうとする意欲や姿勢は重要ですね」と話した。

議員を「知る」

議員と聞けば国会議員を思い浮かべる人も多いだろうが、都道府県議会議員、市区町村議会議員などの存在も忘れてはならない。ドットジェイピーは地方議会議員へのインターンシップも仲介している。市町村などの議員はその地域と密接に関わっており、地域のイベントなどに多く出席するので地元住民の声をよく知っている。刎本さんは「地方の議員さんはその地域で育っている人が多く、地元への想いが強いので、地方議会議員へのインターンシップはおすすめです」とも話した。

政治参加への足がかりとして

現在若者の人口が少なく、投票率も低いので若者の声を選挙で反映されていないことが問題として挙げられている。若者の投票率向上の足がかりとしてアイドルグループSNK48(選挙48)や公式キャラクターである「りっぴー」など、話題性をもたらずプロジェクトを行っている

互いが学ぶ場として

議員さんは年配の方が多く、学生と話すことで今の若者が何を考えているのかを知ることができて良かったと話す議員さんも多いそうだ。政治に若者の声

論説



新たに書店を見かけると、別段急いでいないときであれば立ち寄ってしまっているが、同時に書店巡りも相当に好む。特に目当ての本があるわけでもないのに、知人に尋ね、或いは他の手段を用いて書店の位置を調べる。時には、だいたいの見当を付けて地図もなく探索することもあ

字の如く「書を読む」ことである。元々の言葉は中国で弟子が師匠の書いた書を綴り返し読み上げたことを指した言葉であった。言うまでもなく、読書は幼少期においては言語習得の重要な要因となる。人間は聴覚よりも視覚に依拠することが多く、話すよりも読み書きする方が記憶に残りやすいという話是有名である。ところが近年では若者の「活字離れ」が叫ばれている。活字離れとは、識字率が非常に高い国や地域において、インターネットなどのメディアの普及によって書籍や新聞といった活字媒体の利用率が低下する現象を指す。注意したいのが、ここでいう活字離れとは狭く、読書とは、読んで

ではないだろうか。To see is to believe. 「百聞は一見に如かず」の英訳である。テレビやインターネットでの情報を通して、間接的に見ることで、重要な文章で選挙の重要性を説くよりも、若者が同世代に「投票しよう!」という声を聞かせることが非常に大切なこと

義で、紙媒体以外を含まないものとしていたから、これをして現代の若者が読書をしなくなっていると断定するのは早計である。昔とは異なっているのは電子書籍なるものが流行しているらしい。何冊もの嵩張る本の代わりにタブレット端末を持ち歩き、それをもって読書をするという人が多

夜と霧

ヴィクトール・フランクル 著



感情というものは不可解なもので私たちの中に唐突に現れ、私たちの中を埋め尽くす。時には自分を癒し、助ける。強い感情は悪魔ともなり、自分を傷つけ、他人をも傷つける。この見えざる手は人間に必ず存在し、不可分だ。私たちが抱いた感情や意見を出し合うことで、様々な視点からその本を吟味し、それまで自分一人では気付くことができなかった事実が見えることもある。読書とはこのようにして知識だけでなく視野を広げる手助けもしてくれるのだ。

第二次世界大戦では人の感情が残酷な形で現れた。感情は今では考えられないような数々の行動を引き起こした。「夜と霧」は当時ドイツ占領下にあったポーランド南部にあるアウシュヴィッツ強制収容所に一人の心理学者が収容されたことから始まる。人が極限状態に追い込まれる中、心理学者ヴィクトール・フランクルは、人が希望し絶望することを冷静に分析し、時には自分自身をもその分析の対象とした。

ユダヤ人を収容所へ移送した、ナチス戦犯アドルフ・アイヒマンの裁判に衝撃的なレポートを作成したユダヤ人哲学者を描いた『ハンナ・アーレント』は映画となり数々の賞を受賞した。また、ナチスからの迫害を逃れる少女の日記である『アンネの日記』はあまりにも有名である。これらも『夜と霧』と合わせて読むとより深い思想を巡らせることができる。

NPO法人 ドットジェイピー 2月・3月 春のインターン生 募集中 詳しくは ドットジェイピー で検索!!

「本に書いてあることはたいてい、でたらめだ。目次と定価以外全部嘘だ。」(祥伝社「陽気なギャンブル」が地球を回す)より抜粋 言い得て妙であると思つた。どんなに偉い人が書いた文献でも、そのまま鵜呑みにするのはいい加減なことであると、誰もが頭では分かっている教訓であろう。尤も、この台詞も本の中に書かれていないのかもしれない。しかし、何が正しくて何が間違っているかを全く理解せず、闇雲に全てを否定する

夜と霧 新装版 119104 著者: 米沢 善房